

社会福祉法人順和会

# 陽ノ丘荘だより

発行

〒869-1404  
阿蘇郡南阿蘇村河陽  
4463番地  
社会福祉法人 順和会  
特別養護老人ホーム  
陽ノ丘荘  
TEL 0967(67)2500  
FAX 0967(67)2503



所長 長野 哲敏

陽ノ丘荘居宅介護支援事業所

毎回、施設職員という立場であったが、今回は利用者の家族として体験を述べてみたい。

私の父は七年前、満百三歳で亡くなったが、九十七歳まではとても元気で自宅庭の草取りをしたり、田んぼを見に行ったりして過ごしていた。次男が小学生の時「僕のじいちゃんは明治生まれで、ひいじいちゃんは江戸時代生まれ。」と話し、それを聞いた皆さんが「びっくりされたのを思い出す。その元気が始まり、九十八歳になって急に拒食が始まり、みるみる痩せていった。入院を勧めても「自分のことは自分が一番知っている。」と病院受診をかたく拒否したが、子供たち全員で説得し入院させた次第である。二ヶ月あまりの入院で健康状態は改善したものの、高齢者にとって環境の変化は刺激が強く認知症が出現。穏やかな性格であった

昼間様子をみてくれていた母も転倒し胸骨骨折、家族は二人の介護におられることとなった。ちょうど三人の子育てと重なり、学校行事や部活の応援などで家を空けることも出来なくなった。

二人とも入浴の介助が必要で、排泄に関しては昼間どうにか出来たものの、目が悪い父を寝る前と早朝にトイレに誘導していた。仕事柄介護には慣れていたが、毎日の事で負担やストレスを感じていたのは確かである。両親ともサービスを受けることを拒否していたが、母の状態が安定せず通院等も多くなった為、父をデイサービスにお願ひし、兄弟と相談したうえで陽ノ丘荘への入所申込みも行った。

いざ入所となると、いろんな思いが交錯し、また葛藤があり、気持ちの整理が出来なかったのを覚えている。兄弟、親戚の後押しがあつて入所にいたったわけではあるが、今考えてみると、サービスを受け、そして施設にお願ひしたことは本当に良かったと思っている。自宅での介護には、家族の協力や在宅サービスを利用しても限界がある。私の父が亡くなるまで、車椅子も使わず長生き出来たのは施設のおかげであり、家族がどれだけ救われたか、一言では言いつくせないほどである。

陽ノ丘荘を経験された御家族や、今利用されている御家族は、多分私と同じような思いではないだろうか。これから先、在宅・施設サービスともにもます必要は高まるであろう。陽ノ丘荘職員の一人として、専門性と自身の経験をいかしながら、高齢者やご家族の期待にそえるよう、これからも頑張っていきたい。

## 社会福祉法人 順和会

### ◎法人理念

### 「ぬくもりと安心の福祉」

### ○基本方針

- 一、私達は高齢者福祉サービス事業を通して社会貢献に寄与します。
- 一、私達は常に地域に必要な高齢者福祉サービスの構築を目指します。
- 一、私達は常に利用者の立場にたつた介護を実践します。
- 一、私達は自己研鑽に努め、福祉サービスの質の向上を常とします。